

蔵数西野屋敷遺跡

福岡県筑後市大字蔵数所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第 83 集

2008
筑後市教育委員会

くらかずにし の やしき
蔵敷西野屋敷遺跡

2008
筑後市教育委員会

序

筑後市蔵数地区では現在までに多くの発掘調査が行われ、「蔵数森ノ木遺跡」などの当市を代表する遺跡群が展開する地域であります。

今回報告する蔵数西野屋敷遺跡では、近世の資料が確認され蔵数地区の歴史の一端が明らかになりました。

本報告にあたり、地権者並びに関係者各位に文化財へのご理解、ご協力を賜った事を深く感謝申し上げます。

平成 20 年 3 月

筑後市教育委員会
教育長 城戸一男

例言

1. 本書は平成18・19年度に筑後市教育委員会が行った蔵敷西野屋敷遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。出土遺物、図面、写真等は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。発掘調査及び整理作業の関係者は第1章に記している。
3. 本書に使用した図面の遺構図は上村英士が作成し、遺物の実測・浄書は（財）元興寺文化財研究所に委託し、監理は筑後市教育委員会が行った。
4. 本書に使用した遺構・遺物の写真撮影は上村が行った。
5. 今回の調査に用いた測量座標は国土調査法第II座標系（日本測地系）を基準としている。
6. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による（筑後市における埋蔵文化財の取り扱いについて：2002に準拠している）。
SD - 溝 SK - 土壌 SP - ピット SX - 不明遺構
また、本文中の出土遺物について○×○の表記は両方の可能性が考えられるという意味である。
7. 本書の編集・執筆は上村が行った。

目次

I.	調査経過と組織	1
II.	位置と環境	2
III.	調査成果	3
IV.	考察	12

写真図版

I. 調査経過と組織

蔵敷西野屋敷遺跡は筑後市大字蔵敷字西野屋敷に所在する。平成 18 年 11 月に開発原因者である大崎弘道氏、大崎恵子氏より当該地について試掘・確認調査依頼が筑後市教育委員会に提出され、担当課である社会教育課文化スポーツ係による現地での試掘調査を実施した。試掘調査の結果、当該地全域で遺構が確認され、開発による埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。当該地の約 75 m については遺構が破壊を受ける可能性があるため本調査を実施することで合意し、平成 18 年 11 月 17 日に文化財保護法第 99 条による届出を行い調査を開始した。調査費用に関しては構造物が個人住宅であるため、国・県・市による補助事業として行った。平成 18 年 11 月 22 日から平成 18 年 12 月 5 日まで現地での本調査を行い、整理報告書作成作業を平成 20 年 3 月 31 日に完了した。

発掘調査に関わる調査組織は以下のとおりである。

1) 平成 18 年度（事前審査・本調査）

総括	教育長	城戸 一男
	教育部長	平野 正道
庶務	社会教育課長	田中 優一
	文化スポーツ係長	北島 鈴美
	文化スポーツ係	永見 秀徳
	(文化財担当職員)	小林 勇作
		上村 英士
		阿比留士朗（～6 月 30 日）

2) 平成 19 年度（報告書作成）

総括	教育長	城戸 一男
	教育部長	平野 正道
	社会教育課長	田中 優一
	文化スポーツ係長	北島 鈴美
	文化スポーツ係	永見 秀徳
	(文化財担当職員)	小林 勇作
		上村 英士（本調査、報告書担当）
		吉村由美子

3) 発掘調査参加者

井上むつ子 加藤礼子 角里子 田島好江 田島ヤス子 満川香代子 渡辺泰子

4) 整理作業参加者

整理作業員 野口晴香 野間口靖子

5) (財) 元興寺文化財研究所

実測・浄書 中島朋子 仲文恵 横井理絵 丸山裕美子

調査及び整理作業に際しては次の方々にご指導、ご教示を賜った。記して心より感謝申し上げます。
(敬称略)

角南聰一郎（元興寺文化財研究所）

II. 位置と環境

筑後市は福岡県の南西部、筑紫平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畠、東部では米麦を中心の田園地帯が広がる。市街地は国道に沿って市の中心部に形成されている。

今回報告する長崎地区は市のほぼ中央に位置し、近年は国道209号に沿った形で市街化している地域である。

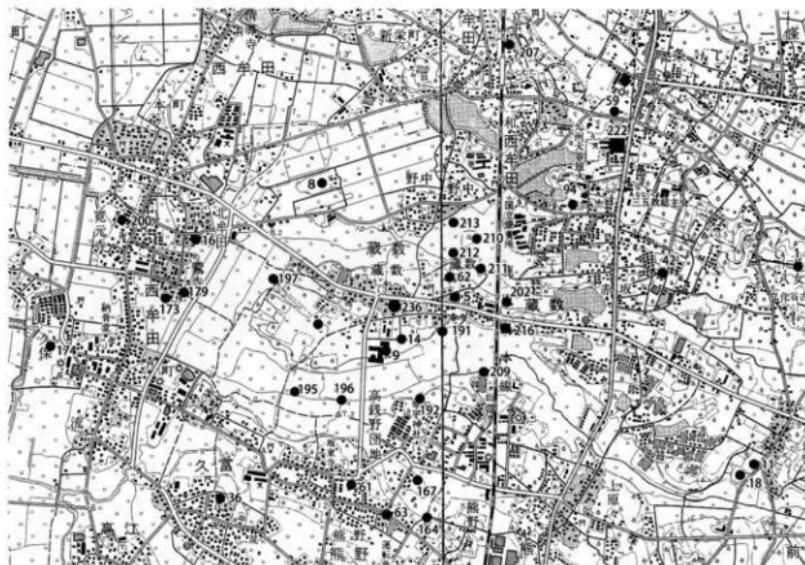


Fig.1 周辺遺跡分布図 (1/25000)

- | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|
| 1. 石人山古墳 | 62. 蔵敷数ノ屋敷道路第2次 | 202. 蔵敷保古手遺跡第1次 |
| 4. 瑞王寺古墳 | 63. 熊野屋敷道路第2次 | 207. 西牟田銭龜遺跡 |
| 5. 蔵敷東屋敷道路第1次 | 94. 蔵敷長原山遺跡 | 209. 熊野柳町遺跡 |
| 8. 田佛遺跡 | 164. 熊野塚根遺跡 | 210. 蔵敷島ノ本遺跡 |
| 9. 蔵敷森ノ木遺跡第1次 | 167. 熊野山ノ前遺跡 | 211. 蔵敷保古手遺跡第2次 |
| 11. 欠塚古墳 | 173. 西牟田小次郎丸遺跡 | 212. 蔵敷三郎丸遺跡 |
| 14. 蔵敷森ノ木遺跡第2次 | 174. 西牟田上京手遺跡 | 213. 蔵敷長嶽町遺跡 |
| 16. 西牟田鷲寺遺跡 | 179. 西牟田鷲寺東遺跡 | 222. 蔵敷大谷遺跡 |
| 17. 蔵敷坂口遺跡 | 191. 熊野水町遺跡 | 216. 蔵敷立野遺跡 |
| 18. 前津塚山遺跡 | 192. 熊野松ノ下遺跡 | 236. 蔵敷西野屋敷遺跡 |
| 36. 久富鳥居遺跡 | 195. 熊野五反田遺跡 | |
| 42. 蔵敷赤坂遺跡 | 196. 熊野宮ノ後遺跡 | |
| 59. 西牟田清瀬浦遺跡 | 197. 蔵敷島崎田遺跡 | |
| 61. 熊野屋敷道路 | 200. 西牟田寛元寺遺跡 | |

III. 調査成果

(1) はじめに

調査は平成 18 年 11 月 22 日から行い、平成 18 年 12 月 5 日に遺跡全体の写真撮影終了後、現場引渡しを行った。

調査区現況は個人住宅内のアスファルト敷き駐車場である。遺跡範囲のうち、約 75 m² の本調査を行っている。遺構の掘削は表土から遺構面までを（有）徳光建設（代表 橋爪徳光）に委託し、遺構面からは地元作業員による手作業の掘削を行った。

層位は表層である駐車場アスファルト及び砂利敷き約 5 cm～10 cm 下に約 5 cm の黄白色粘土を検出した（現代整地土）。その下層で約 20 cm の黒色土（包含層）を検出し、包含層を除去し、約 5 cm の黄色粘（整地層）を除去した後、淡黄橙色粘の地山に切り込む形で遺構を検出している。遺構は溝、ピット、土壤を確認した。

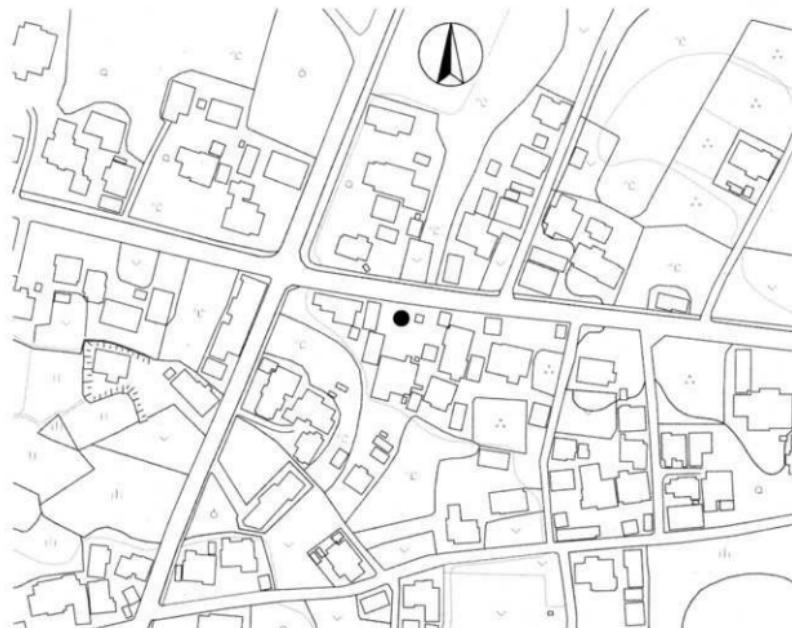


Fig.2 調査地点位置図 (1/2000)

S番号	遺構番号	内容	備考
1	SD1	溝	近世
2		土壤	近世以降
3		ピット	
4		不明	土師器埋め込み
5		裏？	
6	SX6	不明遺構	土の種類を見出す
7		不明	やや硬化している

Tab.1 遺構番号台帳

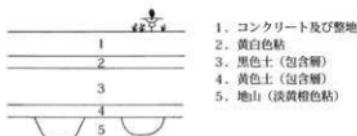
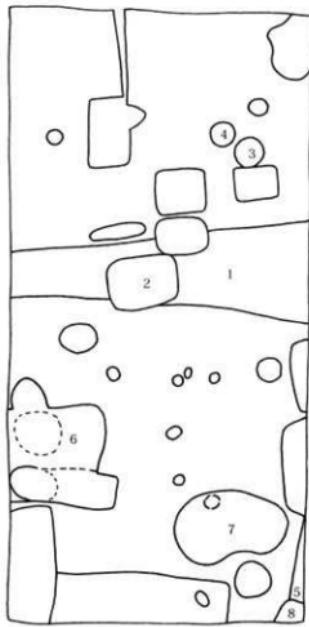


Fig.3 基本土層模式図



0 5m

Fig.4 遺構略側図 (1/100)

X25.895

- 46.852

- 46.850

- 468.480



X25.890

SD01

SK6

X25.885

2 m
0

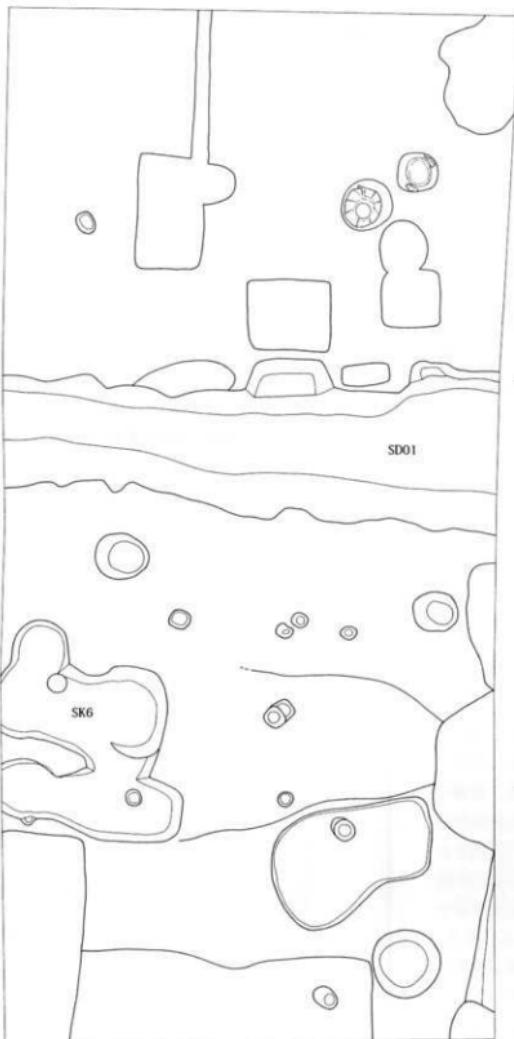


Fig. 5 遺構全体図 (1/60)

(2) 検出遺構

溝

SD1 (Fig.5, Pla.2・3)

調査区を東西に貫く溝である。検出長約 6.0 m、幅約 1.2 m ~ 1.8 m、深さ約 0.72 m ~ 0.88 m を測る。溝断面は調査区西で U 字状を、東で逆台形を呈する。湧水は見られず、埋土は比較的軟質である。遺物は土師器甕片、鍋片、火鉢片、小皿片、青磁甕片、染付皿片、椀片、壺片、仏飯具片、陶器甕片、鉢片、椀片、すり鉢片、蓋片、土瓶片、皿片、壺片、鉄製釘片、土師質瓦片、瓦質土器火鉢片が出土している。

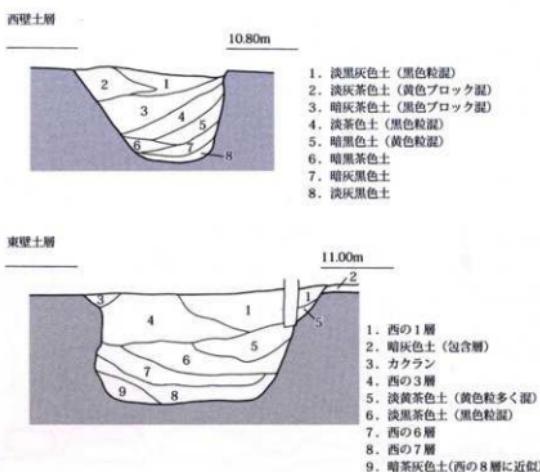


Fig.6 SD1 土層図 (1/40)

土壤

SK2 (Fig.5, Pla.3)

SD1 を切る土壌である。近現代と考えられる。隅丸四角形を呈し、検出長軸約 1.5 m、短軸約 1.0 m、深さ約 0.25 m を測る。遺物は土師器小皿片を出土しているのみである。

不明遺構

SX6 (Fig.5・7, Pla.4 ~ 7)

調査区南で検出した竪穴住居に敷設するようなカマド状の施設である。遺構の縁が赤色に焼けた円形部分を 2ヶ所確認し（北向きと西向き）、共に焼け面の前面の覆土には炭化物や焼土が多く見られる。また、壙底には炭を多量に検出した。遺構全体は不定形で床面と考えられる部分の硬化は見られない。突出した円形の焼け面部分は最大幅約 0.7 m ~ 0.75 m、深さ約 0.24 m を測る。遺物は出土していない。

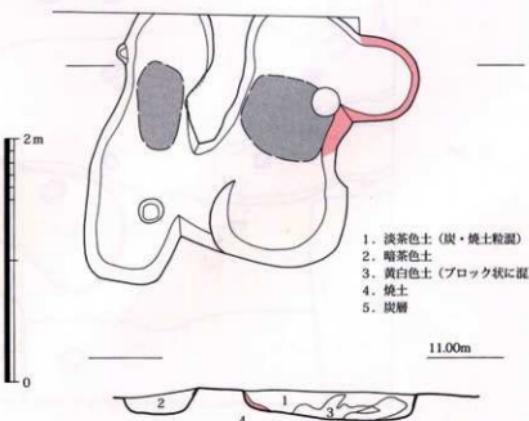


Fig.7 SX6 実測図 (1/40)

(3) 出土遺物

溝

SD1 (Fig.8 ~ 11, Pla.8 ~ 10)

土師器

小皿 (1) 口径 7.9 cm、器高 2.0 cm、底径 4.2 cm を測る。底部回転糸切りで板状圧痕が見られる。底部には焼成後の穿孔が見られる。胎土がよく精選されている。

鉢 (2・3) 2 は口縁部片で外面を縱方向のハケ目、内面を横方向のハケ目、口唇部をハケ目後ナデで調整する。3 は内面を横方向のハケ目後ナデ、外面は指頭痕が残りナデで調整する。

火鉢 (4 ~ 6) 4 は肩部片で外面には巴文のスタンプ、内面は横方向のハケ目後ナデを施す。肩部下には突帯が張り付き、遺物断面内部は淡茶黒色に変色している。5 は口径 30.6 cm を測る。調整はヨコナデ後に外面のみ横方向のヘラミガキを施す。口唇部は被熱による黒色化を呈する。6 は底径 27.0 cm を測る。透かしを施し、底部は輻状に整形される。外面は縱方向のハケ目、内面は横方向のハケ目を施す。

磁器

碗 (7・8) 7 は白磁で口径 7.4 cm、器高 2.8 cm、高台径 2.8 cm を測る。施釉は薄く、見込みに砂が付着する。8 は口径 9.0 cm、器高 3.25 cm、高台径 5.7 cm を測る。内外面に細かい貫入が見られ、ピンホールも僅かに見られる。

香炉 (9) 青磁の香炉片で口径 6.2 cm、器高 9.5 cm、高台径 6.0 cm を測る。体部外面から口縁部内面まで施釉、底部は回転ヘラケズリで釉を拭き取った痕跡が見られる。

花瓶 (10・11) 共に青磁の花瓶である。10 は口径 9.9 cm、器高 15.6 cm、高台径 5.4 cm を測る。口縁内面から外面に厚く施釉、頸部下に把手のような装飾を 2 箇所に貼り付ける。高台接地面のみ釉をカキ取り 2 箇所に目跡が残る。11 は 10 よりやや大きい花瓶で器形及び頸部下の装飾は同じである。

碗 (12 ~ 15) 全て染付け碗片である。12 は口径 9.25 cm、器高 4.9 cm、高台径 3.1 cm を測る。外面に七宝地文と圈線、内面には圈線と見込みに昆虫文を描く。13 は口径 9.4 cm、器高 5.4 cm、高台径 3.9 cm を測る。外面に圈線と文様を書き底部外面にも描く。高台外面には素地に文様を下書きした痕跡が残る。14 は口径 9.6 cm、器高 5.1 cm、高台径 4.1 cm を測る。13 とは違う文様を描くが器形は近似している。15 は口径 12.8 cm、器高 4.5 cm、高台径 7.8 cm を測る。器形がやや浅く、内外面に文様を描き、見込みには五弁花のスタンプが見られる。

皿 (16・17) 共に染付け皿片で 16 は口径 13.6 cm、器高 3.4 cm、高台径 9.2 cm を測る。外面に源氏香文が描かれ、蛇の目状に高台を形成する。17 は高台径 11.4 cm を測る。内面に花の文様を描き、外面には唐草文を描く。内外面に貫入が見られ光沢度、透明度は高い。

壺 (18・19) 18 は胴部から底部にかけての片で高台径 6.2 cm を測る。外面に縄目状の文様を描き、底部接地面は砂目のカキ取りと釉の拭き取りを行う。19 は頸部から胴部片で外面に草花文を描き、内面は露胎で釉だれが見られる。

仏飯具 (20) 脚部底径 3.6 cm を測る。外面に文様を描き、全体的に薄く施釉する。

陶器

灯明皿 (21) 口径 8.55 cm、器高 2.3 cm、底径 3.5 cm を測る。底部回転糸切りで口縁部には煤が付着する。底部外面から体部にかけての一部に白色の付着物が見られる。

蓋 (22) 土瓶の蓋か。口径 11.2 cm、かえり部分径 8.4 cm、つまみ径 1.8 cm、器高 4.55 cm を測る。外面は施釉し、かえり部分に煤が付着する。

鉢 (23) 口縁から体部にかけての片で内面の圈線部分が淡灰緑色と淡緑茶色の組み合わせである。内面に細かい貫入が見られる。

壺 (24・25) 24 は高台径 10.2 cm を測る。外面は鉄釉を施した上に淡白灰色、淡灰緑色の釉を施す。内面は淡白灰色の施釉。高台接地面のみ釉のカキ取りを行う。25 は高台径 6.0 cm を測る。残存している外面上部のみ施釉痕が残り、残りの外面から底部にかけては回転ヘラケズリの痕跡が残る。内面は工具による横方向のナデ。

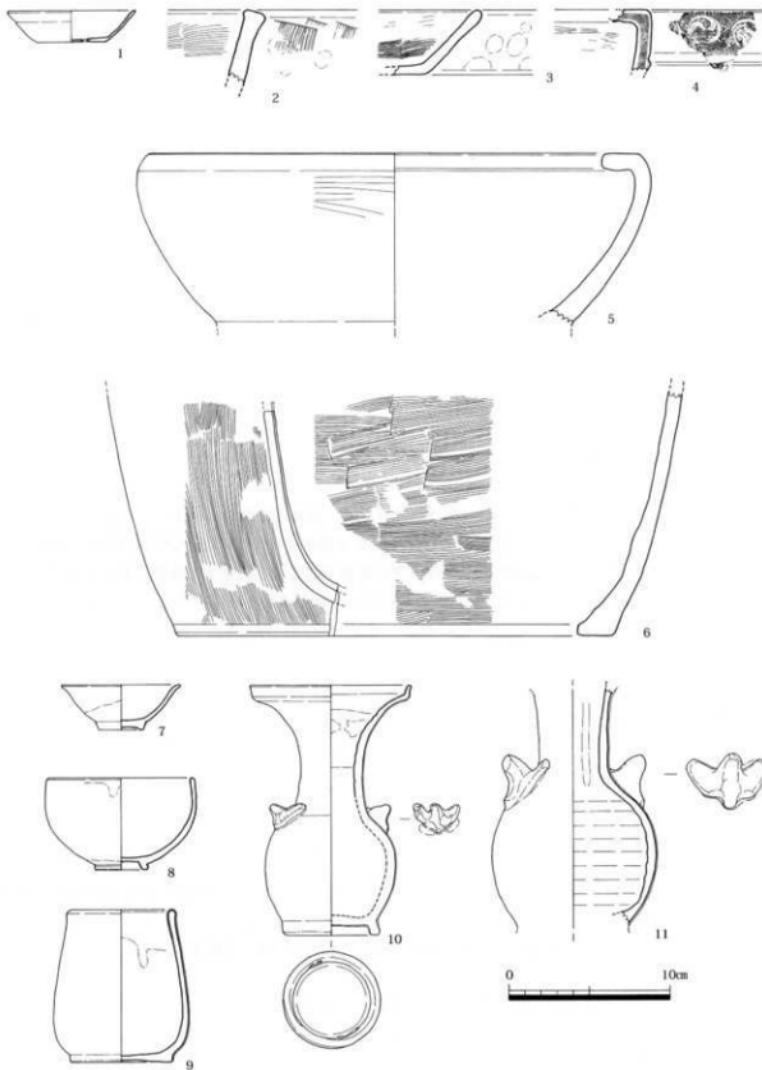


Fig. 8 出土遺物実測図 (1/3)

甕 (26 ~ 28) 26 は口径 32.4 cm を測る。断面三角形に近い口縁を形成し口唇部には目跡が残る。体部外面には 2 条の沈線が巡り、内面はタタキ痕跡が残る。27 は底径 22.8 cm を測る。底部に焼成時に付着したと見られる粘土塊が残存する。内面にタタキの痕跡が残る。28 は鉢に近い形状をとる。口径 29.5 cm を測る。外面に 3 種の釉を施す。

土瓶 (29・30) 共に胴部片である。29 は胴張の器形で注ぎ口が残存している。胴部下半から煤が付着

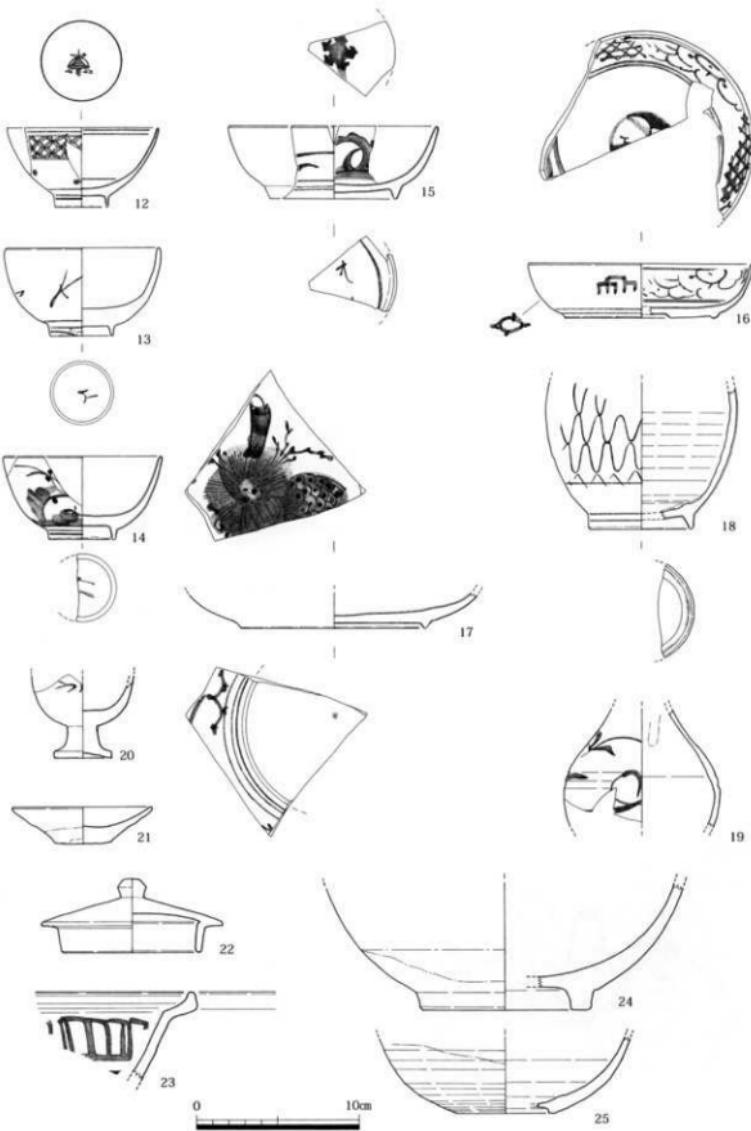
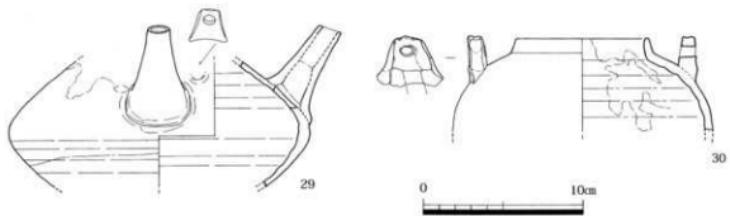
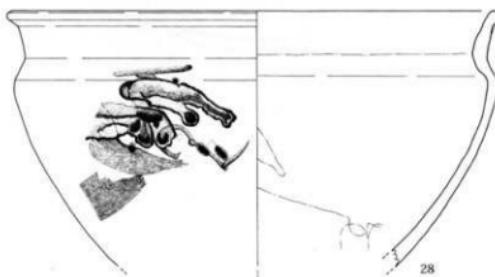
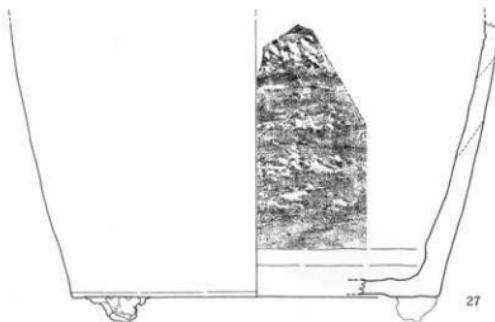
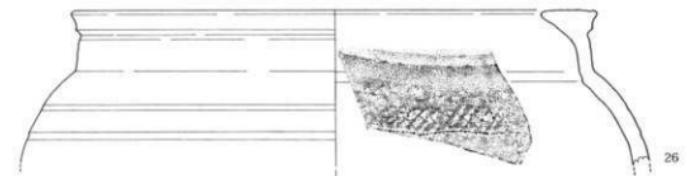


Fig.9 出土遺物実測図 (1/3)

する。30は口径8.4cmを測る。穿孔した把手を取り付く。内外面に煤が付着している。

瓦(31~36)全て平瓦で32のみ瓦質焼成に近いが、その他は土師質である。31・35は凹凸面共にハケ目調整、32はナデ、33・36はハケ目後ナデ、34は凹面がヘラケズリ、凸面はナデ調整である。32・34・35の端部はヘラ切りを行っており、水田焼の平瓦に見られる制作方法の可能性がある。



0 10cm

Fig.10 出土遺物実測図 (1/3)

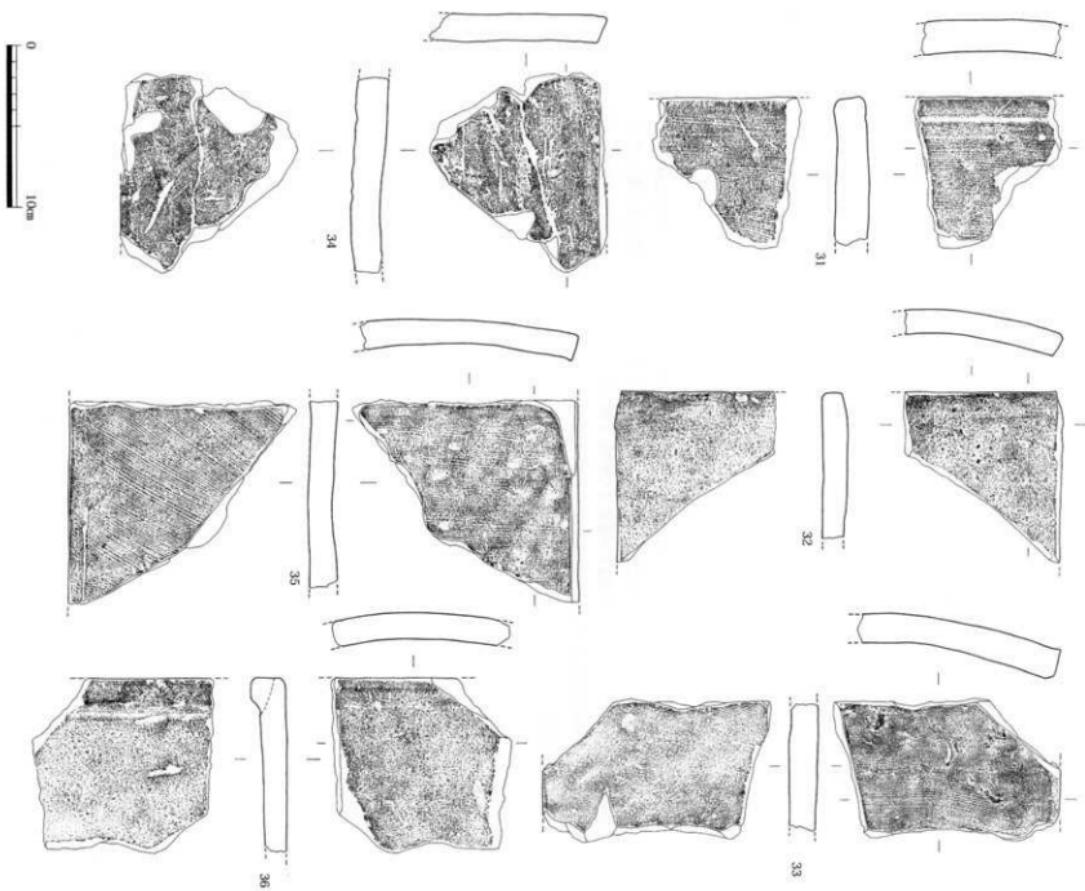


Fig.11 出土遺物実測図 (1/3)

IV. 考察

狹小な調査区の設定であったが、今次調査からは近世を中心とした遺構が確認された。これらの遺構のうち、豊富な遺物を出土した S D 1 は残存深さで約 0.9 m、U 字状および逆台形の断面をとる溝である。この溝は調査地を東西に走り現況の集落を貫く溝であると考えられる。また、調査地に隣接する現況の県道に沿うことから、古来からの道路側溝であった可能性も考えられる。埋土に関しては河川のような流れ込み等による自然堆積ではなく、人為的に埋められたものと考えられ、現況集落の土地利用を考える上での両期として考えることも可能である。

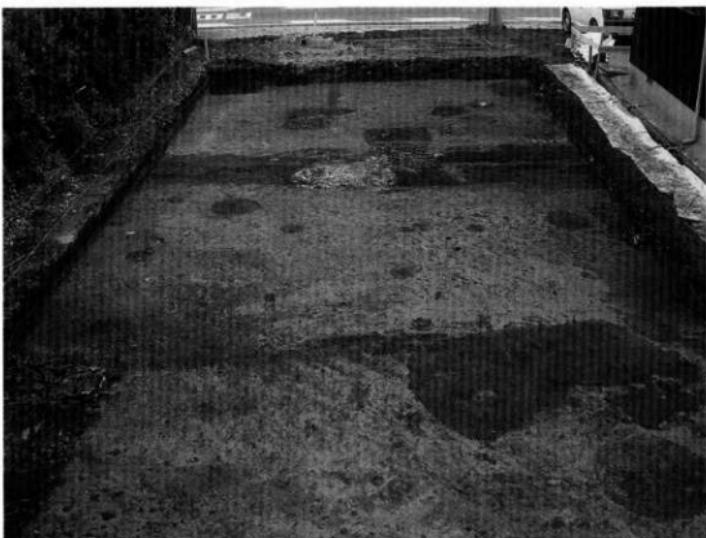
S D 1 からの出土遺物は先に報告したとおり豊富である。近世から近代を中心に出土しており、これらの遺物のうち土師質の瓦が数点出土していることに注目したい。中世から近世・近代にかけて、市内出土の瓦はそのほとんどが瓦質焼成された黒褐色を呈した瓦であるのに対して、一部の遺跡からは土師質の瓦が数点出土している。この瓦については狭川真一氏による報告の中で近世に創業され今に続く水田焼で瓦が製作されていた可能性を示唆する論考がある。今次調査で出土した瓦も製作技法において非常に近似している。水田焼に代表される土鍋や人形については記録が残り、成立過程や流通についても論考があるが、この瓦については生産過程や流通過程に不明な点が多く、今後も資料調査を重ねなければならない。

今次調査の周辺遺跡は蔵敷森ノ木遺跡に代表される弥生時代の遺構が密に分布している地域である。しかし、今次調査からは弥生時代に該当する遺構・遺物は確認できなかった。調査地が古くからの蔵敷地区の集落の中心であるため、土地の利用に関して様々な変遷による造成、整地等があったのであろう。地権者である大崎氏からは自宅周辺の畠などで弥生土器が数多く見られたとの話もうかがっている。こうした状況の中で蔵敷遺跡群とされる埋蔵文化財包蔵地についても更に詳細な分布調査や今次調査で明らかになった近世などの遺構の分布も把握していくなければならない。

参考文献

『筑後市内遺跡群V』筑後市文化財調査報告書第52集 2003 筑後市教育委員会 (財)元興寺文化財研究所

写真図版



調査前全景（南から）



調査後全景（南から）

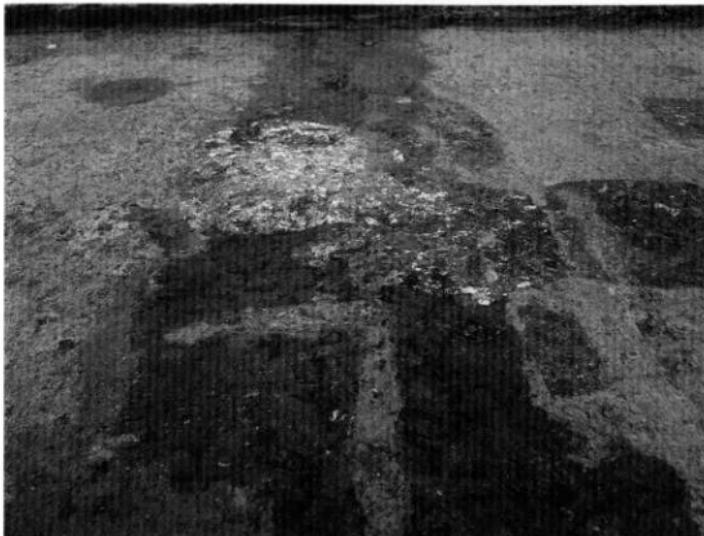
Pla.2



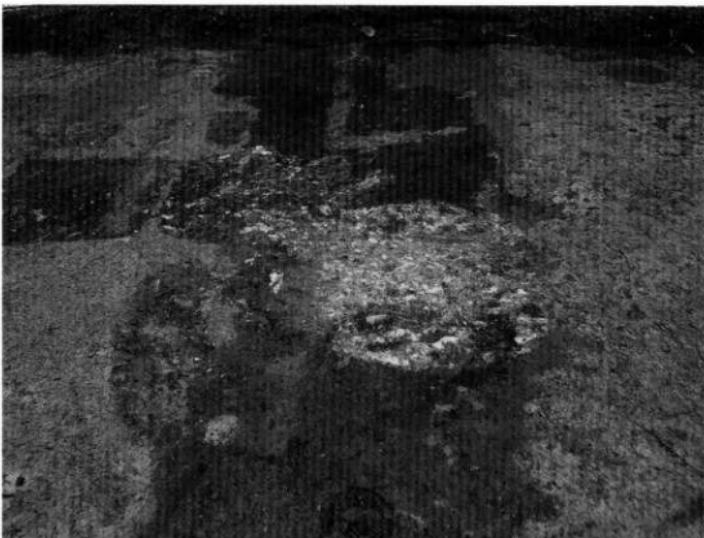
SD1 東壁土層観察（西から）



SD1 西壁土層観察（東から）



SD1 検出状況（東から）

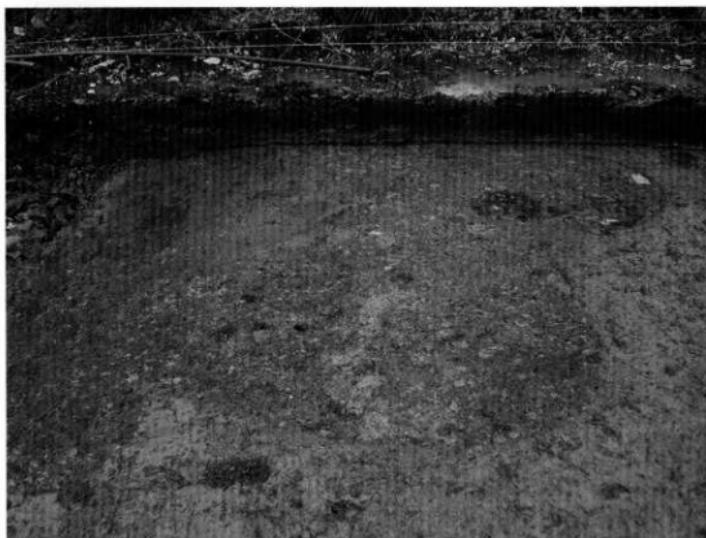


SD1 検出状況（西から）

Pla.4



SX6 検出状況（南から）



SX6 検出状況（東から）



SX6 完掘状況（南から）

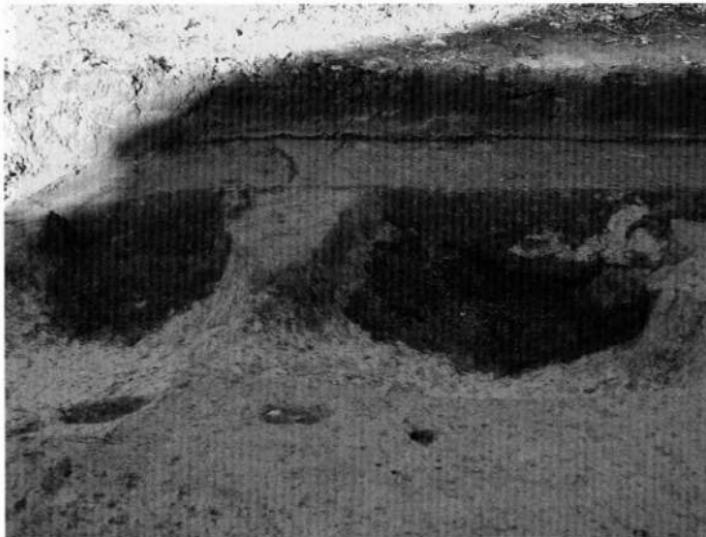


SX6 完掘状況（東から）

Pla.6



SX6 燃け面検出状況（北から）

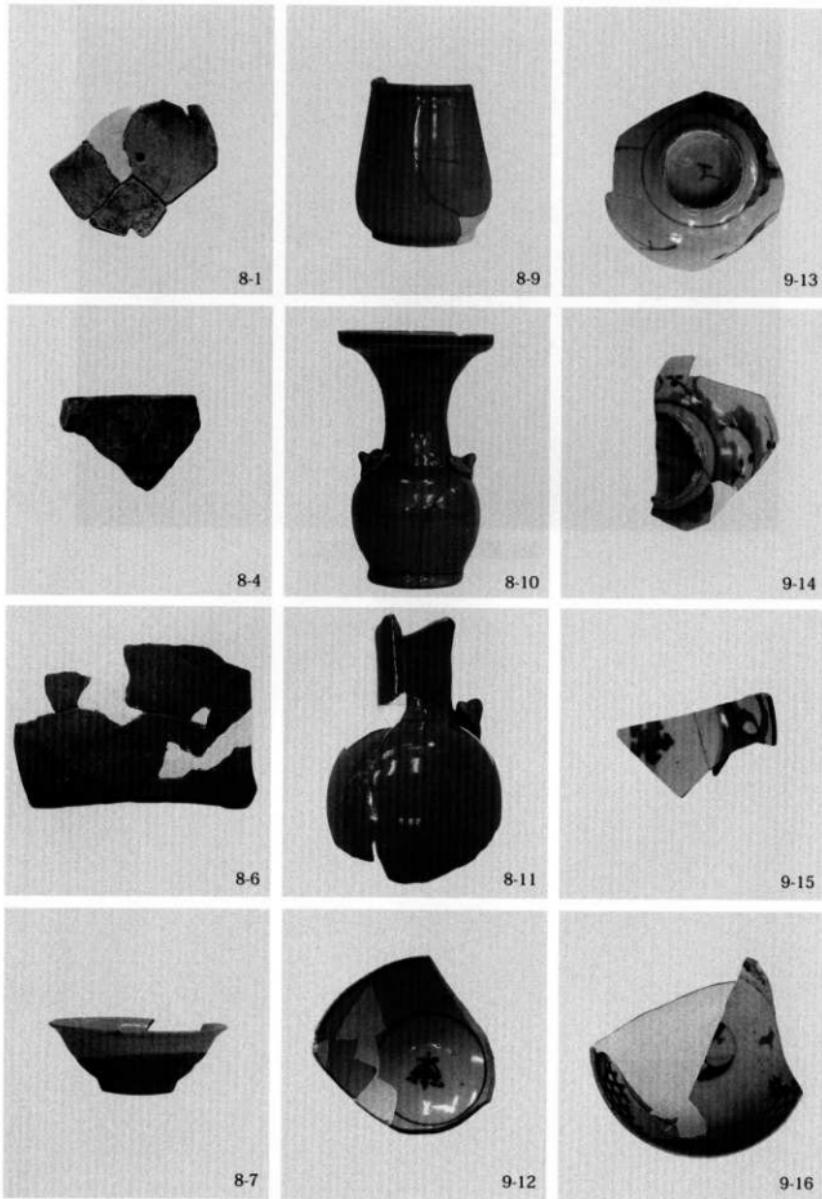


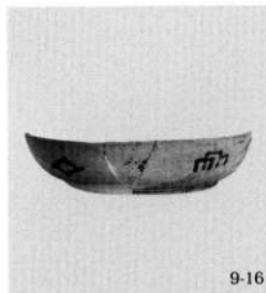
SX6 土層観察（東から）



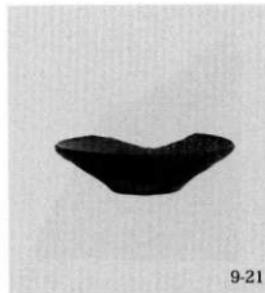
SX6 焼け面土層観察（東から）

Pla.8

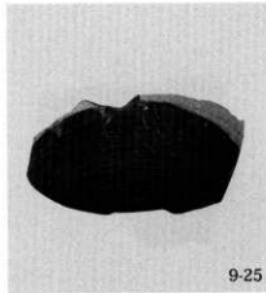




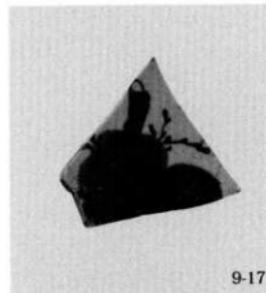
9-16



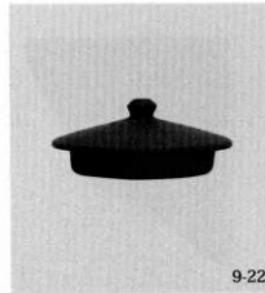
9-21



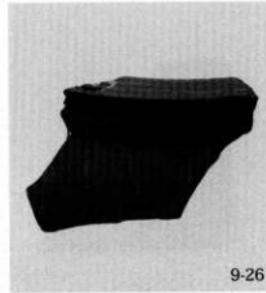
9-25



9-17



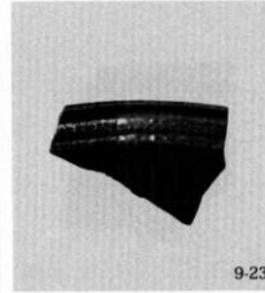
9-22



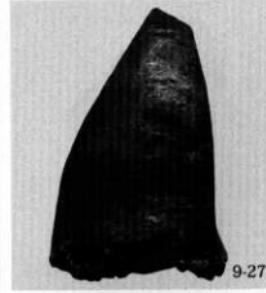
9-26



9-18



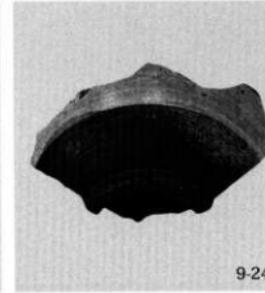
9-23



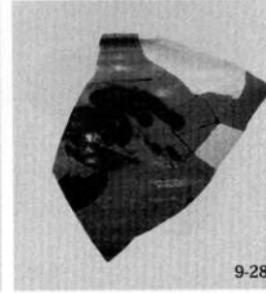
9-27



9-19

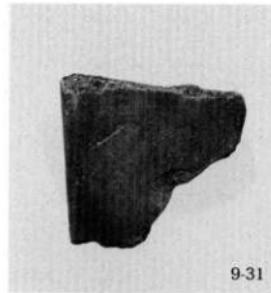


9-24

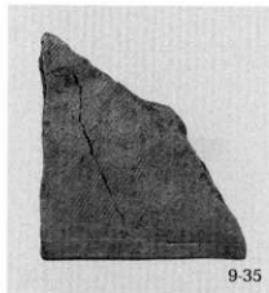


9-28

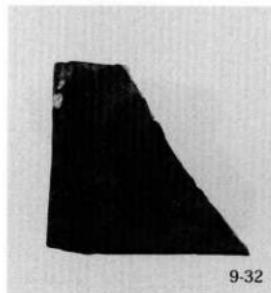
Pla.10



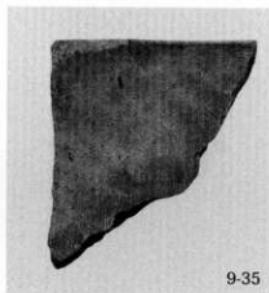
9-31



9-35



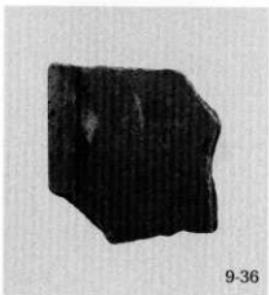
9-32



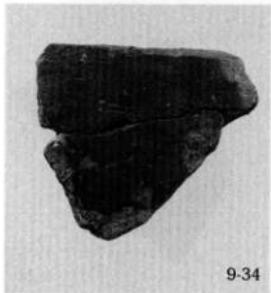
9-35



9-33



9-36



9-34

筑後市文化財調査報告書 第 83 集

蔵敷西野屋敷遺跡

平成 20 年 3 月 31 日

発行 筑後市教育委員会

福岡県筑後市大字山ノ井 898

TEL 0942-53-4111

印刷 大同印刷株式会社

佐賀市久保泉町大字上和泉 1848-20

TEL 0952-71-8520 備